

地域医療を守り、育てるための医療指針

下呂市医療ビジョン

(第二次改訂版)

— 平成29年3月版 —

下 呂 市

目 次

第1章 ビジョン策定にあたって

1. ビジョン策定の趣旨…………… 1
2. 構 成…………… 1
3. 位置づけ…………… 2

第2章 地域医療確保のための取組み

1. 下呂市の地域医療体制について…………… 3
2. 医療を守る人材の確保について…………… 7
3. 地域医療を守り育てる活動について…………… 1 1

第3章 「下呂市医療ビジョン」(初版)の反省と課題

1. 地域医療体制について…………… 1 4
2. 人材確保・育成対策について…………… 1 5
3. 市民協働体制について…………… 1 7

参考資料

- 別紙1. 修学資金貸与制度利用状況…………… 1 9
- 別紙2. 今までの取組み(年表)…………… 2 0
- 別紙3. アンケート結果一覧…………… 2 2
 1. ビジョン策定の経過…………… 2 4
 2. 下呂市医療ビジョン策定委員会設置要綱…………… 2 5
 3. 下呂市医療ビジョン策定委員会委員名簿…………… 2 6
 4. 下呂市医療ビジョン策定委員会事務局名簿…………… 2 6
 5. 用語解説…………… 2 7

第1章 ビジョンの策定にあたって

1. ビジョン策定の趣旨

下呂市は、「平成24年度に下呂市立金山病院、平成26年度に地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院が新築移転と市民の命と健康を守る2つの病院建設に伴い、より良い医療環境が順次整うことに対し、地域医療を確保、さらに将来にわたって地域医療の拠点とするためには、下呂市の医療政策指針を市民の方々に示しながら、市民の誰もが安心して医療を受けられる体制の整備に努めなければなりません。」として、平成23年度に市医師会の全面的協力を得て下呂市が抱えている地域医療の課題について協議を進め、喫緊の課題である「地域医療体制に関すること」、「医療従事者確保・育成対策に関すること」、「市民が主体となって医療を考えること」の3項目を重点とし、その対応方針・具体的取り組み、目標を取りまとめた「下呂市医療ビジョン」を策定いたしました。

下呂市医療ビジョン策定から4年が経過、国は、将来（2025年）あるべき医療提供体制を、構想区域を設定して策定する地域医療構想を掲げ、県は疾病対策及び医療提供体制の基本方針である第6期岐阜県保健医療計画を策定するなど医療提供体制の方向性が大きく変化してまいりました。

下呂市においても少子化、生産年齢人口の減少、高齢化といった問題を抱え、取り巻く環境は将来的に市政運営に大きな影響を及ぼしかねないとして、平成27年度に「第二次総合計画」において10年後の下呂市のあるべき姿を捉え、「人口減少対策・行財政改革・地域づくりのしくみ」を重点プロジェクトに位置付け、各種施策に取り組んでいるところです。併せて地方創生下呂市版の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところであり、3つの重点プロジェクトの一層の推進が必要であり、待ったなしの取り組みが求められています。

そこで、「下呂市医療ビジョン～地域医療を守り育てるための医療方針～」を検証するとともに課題整理を行い、対応方針、具体的取り組み・目標について再度検討し平成29年から5年間の地域医療確保に向けて行動に移すための具体的な指針として「地域医療を守り、育てるための医療指針 下呂市医療ビジョン（第二次改定版）」を策定しました。

2. 構成

「下呂市医療ビジョン」（初版）は、下呂市が抱えている地域医療の課題のうち喫緊の課題について「下呂市医療ビジョン策定委員会」に諮り、課題ごとに検討を行い、対応方針、具体的取り組み・目標について取りまとめています。

今回、「下呂市医療ビジョン」（初版）の検証による課題整理と状況の変化に

対応した見直しにより新たな「下呂市医療ビジョン策定委員会」に諮り、課題ごとに検討を行い、対応方針、具体的取り組み・目標について取りまとめた策定を目指します。

3. 位置づけ

本ビジョンは、今後5年間のうちに取組むべき具体的な施策と重要業績評価指標などを定めた地方創生下呂市版の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に従い、「人口減少対策・行財政改革・地域づくり」の三本柱を重点プロジェクトと位置付け、10年後の下呂市のあるべき姿を捉えた「第二次総合計画」を最上位計画としています。

「下呂市医療ビジョン（第二次改訂版）」は、保健・医療・福祉が相互に連携・協力しさらに市民との協働により「誰もが笑顔で元気に暮らせるまちづくり」のための具体的な取り組みの指針とします。

第2章 地域医療確保のための取組み

「下呂市医療ビジョン（第二次改訂版）」は、下呂市第二次総合計画の「だれもが笑顔で元気に暮らせるまちを支えます」を基本目標とし、市民・医療機関・行政が一体となり、地域医療を守り育てる取組みを行うこととしています。

今回、市医師会の協力を得て平成23年度に策定した「下呂市医療ビジョン（初版）」を検証したうえで、その反省より「今ある医療体制の継続と充実」、「医療機関の連携」、「市民との協働」をキーワードに「下呂市の医療体制について」、「医療を守る人材の確保について」、「地域医療を守り育てる市民協働体制について」を再び重要な課題としてとらえ、その具体的な取組みと目標を設定しました。

1. 下呂市の医療体制について

将来にわたり、市民が健康で安心して暮らしてゆくためには、必要な医療を安定的に提供し続けていくことが必要です。

下呂市には18の個人医院・診療所があります。市のほぼ中央には県立下呂温泉病院が、そこから南に約25km離れて市立金山病院があり、二次医療機関としての役割を果たしています。隣接する高山市や中津川市、美濃加茂市、関市には、三次医療機関に位置づけられるような大きな病院があり、市内からの利用者も少なくありません。

産婦人科医や小児科医などの専門医は、不足しています。病院においても常勤の専門医は少なく、非常勤医師で対応するケースが増えてきています。

医師数は、残念ながら減少傾向であり、少ない医療資源で下呂市の地域医療を担っているのが現状です。

一方、今後の高齢化は確実であり、医療と介護の両方を必要とする人はますます増加することが予想されています。

こうした中、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築することを通じて、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進することを目的とした「地域医療構想」が岐阜県において策定されました。

医療提供体制の構築については、病院と病院、あるいは病院と診療所が連携または役割分担をする病病連携や病診連携の推進が不可欠であり、その手法について関係者による検討が必要です。地域医療構想による病床機能の転換や削減については、医療資源や利用者の状況等、地域性を考慮する必要があります。

第2章 地域医療確保のための取組み

地域包括ケアシステムの構築については、医療や介護を担う関係者によるワークショップが開催され、多職種による連携強化を進めています。今後は、医療や介護のスムーズな連携を図るために、ICTも絡めた仕組みづくりも検討しなければなりません。

2025年（平成37年）に向け、医療や介護の仕組みは著しく変わっていくことが予想されます。行政や医療機関においては、かかりつけ医や病院における医療の役割分担、医療と介護の連携など、それらの仕組みについて市民にわかりやすく説明し、医療機関及び介護施設を利用しやすい環境整備を進める必要があります。

表 I 下呂市の人口減少！どの年齢が減少する

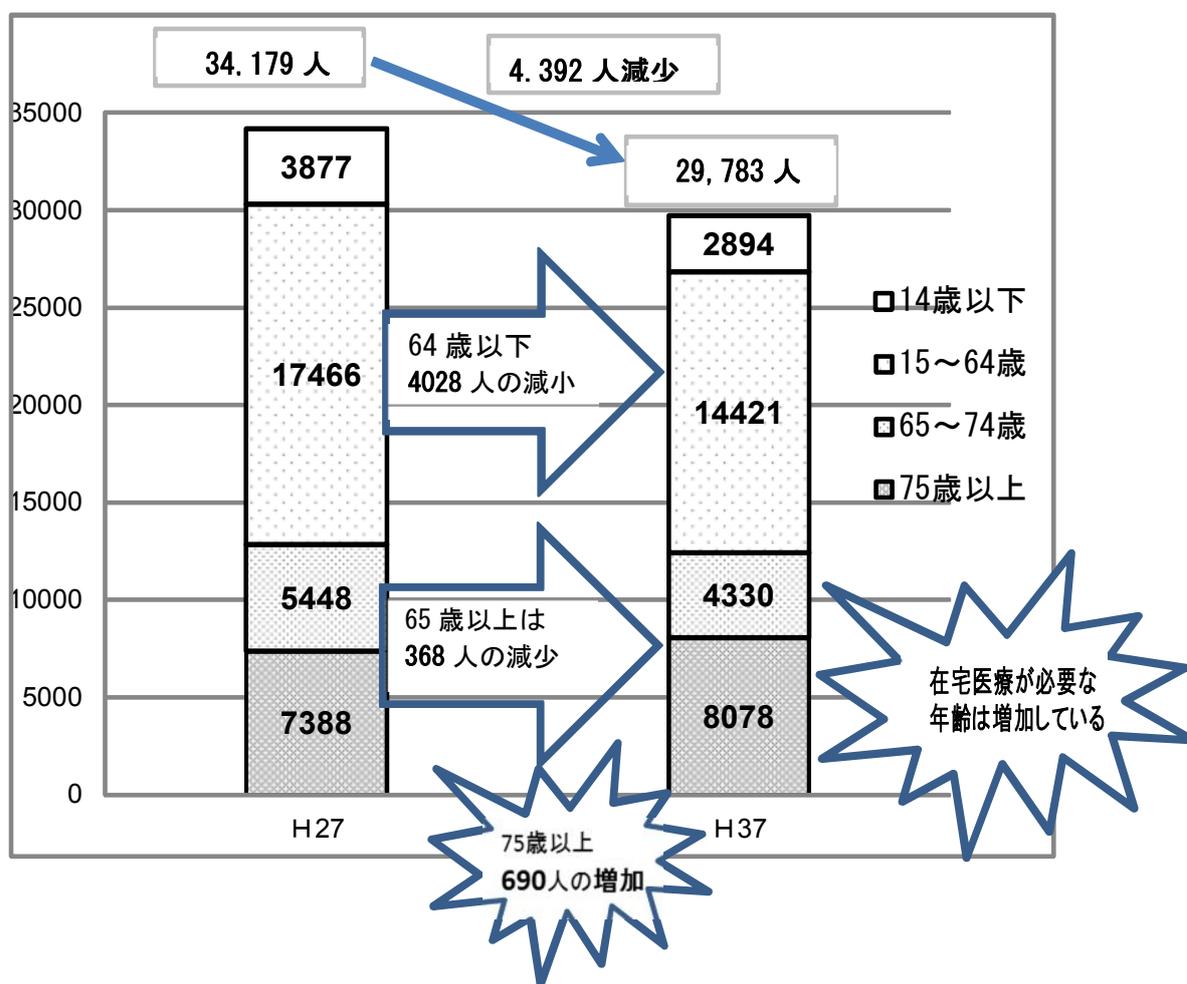
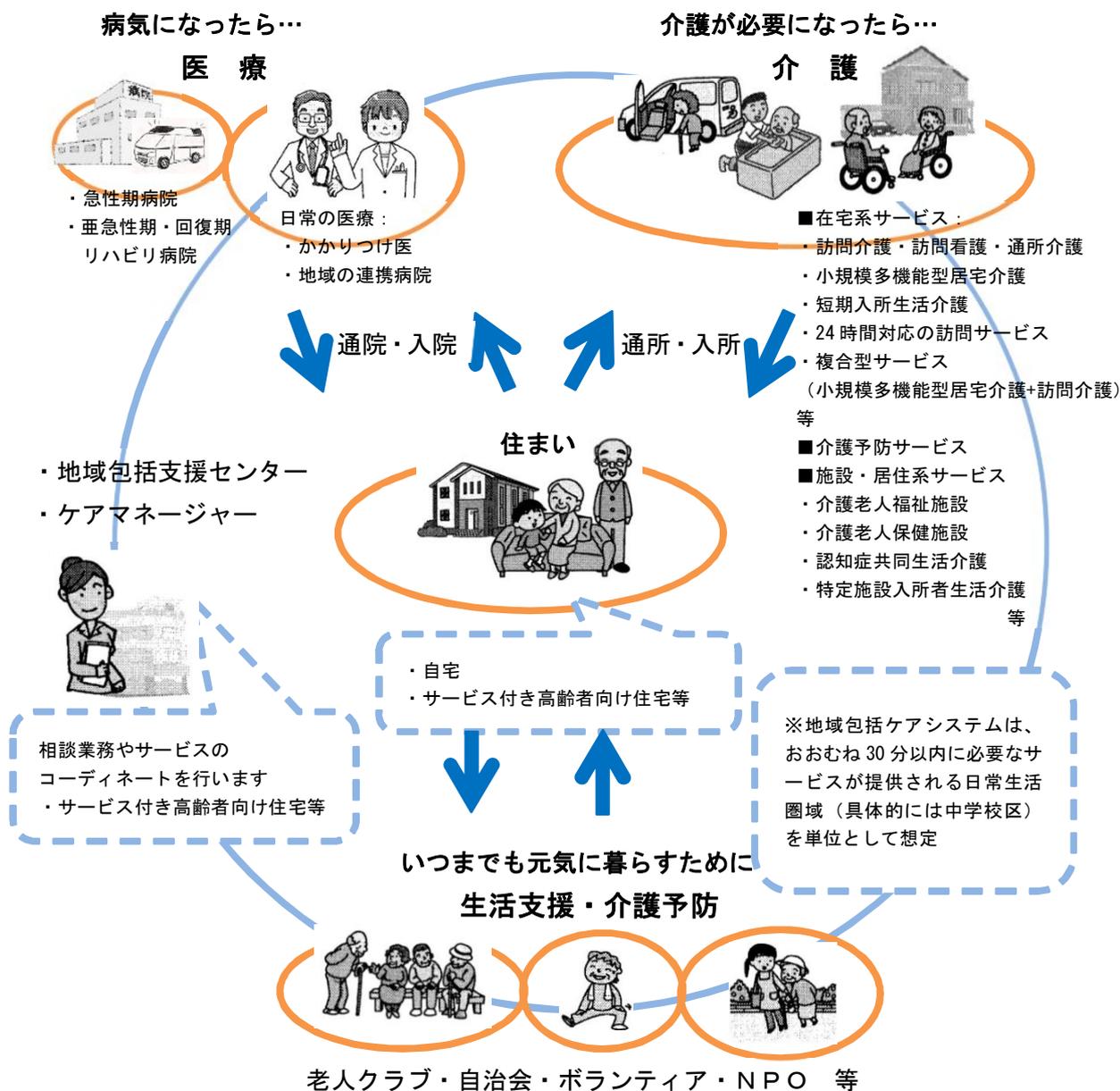


図 I

地域包括ケアシステムの姿



- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

※厚生労働省資料より

【主な取組み】

- ◎地域包括ケアシステムの構築のため、「医療と介護の輪会議」など多職種連携会議に参加し、保健、医療、介護（福祉）のスムーズな連携を進めましょう。
- ◎病病連携・病診連携を深め、地域医療の向上を図りましょう。
- ◎医療機関相互の機能の分担及び業務の連携を推進するため、地域医療連携推進法人制度*あるいは ICT を用いた情報の共有化について研究しましょう。
- ◎ICT の活用も含め、医療施設と介護関係施設のリアルタイムな情報共有を進めましょう。
- ◎安心して出産、子育てのできる体制を構築します。

【目 標】

- ① 病病連携及び病診連携を深めるとともに、医療機関と介護施設との連携も深め、市民が利用しやすい医療体制・地域包括ケアシステムを構築します。
- ② 医療と介護の役割分担や医療機関や、介護施設の利用について、市民にわかりやすく広報します。

2. 医療を守る人材の確保について

下呂市には、18の個人医院・診療所に18名の医師が、3つの病院に33名の医師が医療活動に従事されています、下呂市で働くことを選択され、長期にわたり、下呂の地域医療を支えていただいています。

下呂市で働く魅力や要望について尋ねてみました。

☆アンケート結果 下呂市で長期にわたり医療に従事されている医師を対象にアンケートをとりました。

【個人医院の医師のご意見】

<p>■魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境が良く、医業に専念できる。 ・市民の人柄がよい ・患者さんのニーズがあり必要とされる ・地域医療のお手伝いができる ・医師会員は多くないが、各自の専門性があり連携して活動できる 	<p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立下呂温泉病院の医師確保と定着 ・医師への支援（住居、土地など） ・定住して働ける魅力ある環境（医療に限らず） ・予防医学への取り組み
--	---

【病院勤務の医師のご意見】

<p>■魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に密着した医療ができる ・地域医療の主観的な役割の一部を担うことができる ・地域の人たちからの感謝のこぼれや態度が仕事の励みになる ・市民の方が医師を大事にしてくれる ・医師不足の地域なので広範な医療に貢献できる ・下呂市の担当課ともよく連携でき、地域医療への関わりを実感できる ・幅広くかかりつけ医としての役割。都市部の病院に負けずへき地でもトータルコーディネイトとして一定レベル以上の方が受診できる 	<p>■要望</p> <p><u>医師の勤務体制について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の確保 ・医師への配慮（医師に対してのバッシングでなく、市民も医師を育成していく観点で接してほしい） ・医師が少ないため学会等への参加ができない ・研修医への支援 ・病院内の事務人事の改善 ・通常勤務から当直勤務への長時間体制の改善 <p><u>住環境について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の生活圏の確保・改善（住宅、食事、レクリエーション、子供の教育環境など） ・他地域へのアクセスがわるい ・医師住宅の老朽化の改善
--	---

※アンケート結果については、参考資料別紙3を参照ください。

第2章 地域医療確保のための取組み

アンケートの結果からは、医師として地域に貢献しようとする高い意識が感じられました。一方では、住環境の改善など切実な要望もありました。下呂市において長く勤めていただくために、要望事項については早急な改善が必要です。

また、県立下呂温泉病院や市立金山病院に勤める医師の勤務条件の改善も課題です。当直をはさんだ36時間連続勤務など、厳しい勤務を強いられています。

アンケートには記載されていませんが、夜間や休日に重症者の受入を目的とする救急外来を、軽症であるのに受診する、いわゆるコンビニ受診があることや、必要とは思えない専門的な検査や精密検査を要求するなど、対応に苦慮するケースも少なくないという声も聞きます。

こうしたことが重なると、重症患者の対応や入院中の患者の急変の対応が困難になることがあります。医師が休養することもできなくなります。

私たち市民にできることは、気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことです。症状が軽いなどと思ったら、病院ではなく、まずは「かかりつけ医」を受診することです。

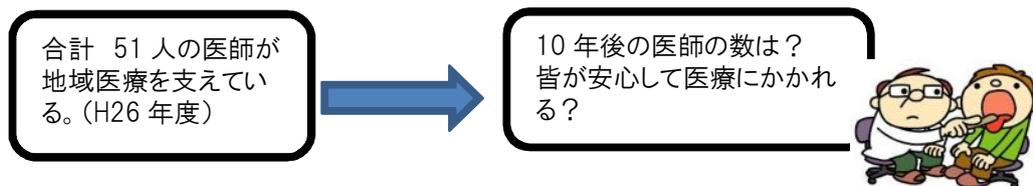
市内18の個人医院や診療所は、子どもから高齢者まで、多くの市民がかかりつけ医として利用しています。専門科だけでなく、幅広く診察をしており、地域にとって、無くてはならない存在です。

図Ⅱ 医師数の現状と年齢構成

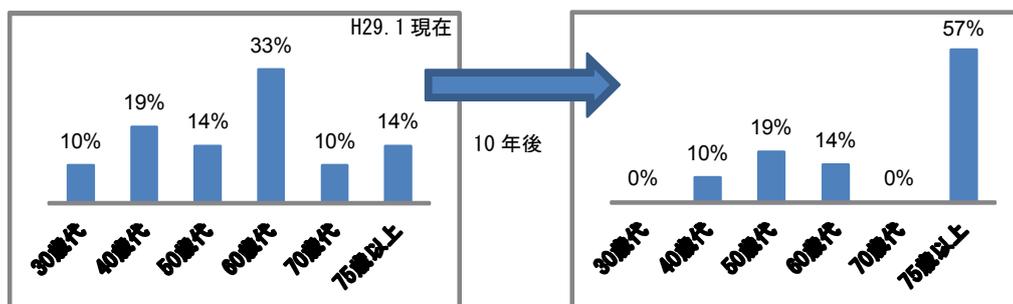
医師数はどう変化するか？

○3病院：33人の医師※飛騨圏域の公衆衛生より

○診療所、個人医院：18人の医師



個人医院・診療所の医師の年齢構成



※資料提供：下呂市医師会

第2章 地域医療確保のための取組み

しかし、10年後には個人医院や診療所の57%の医師が75歳以上になります。高齢医師の引退を考えると、10年後の医療体制をどうやって確保するのか、今から考えておく必要があります。

アンケートには、下呂市では医師が広範な医療に関わることが魅力であるという回答があります。真剣に患者に向き合い、専門外の傷病の治療に専心することで、自らの医療の幅が広がることを魅力として捉えています。

また、昔ながらの人と人のつながりが残る下呂市では、病院スタッフも患者も顔見知りというケースが多くあります。他地域から赴任した若い医師にとっては、病院スタッフを通じて患者とのコミュニケーションを深めることが可能であり、患者との信頼関係を築きやすいというメリットがあります。

このような、医師として働くうえの地域の魅力を発信することも、医師招へいにつながると考えています。

もちろん、市内の子どもたちの中から医師を育てる取組みも欠かせません。医師、薬剤師、看護師など、医療従事者を夢見る子どもは少なくなく、そうした子どもたちが地域医療の現場を見学し、関係者の話を聴くことは、子どもたちにとって大きなモチベーションになると考えられます。

表Ⅱ 市立金山病院の医師の推移

	H24	H25	H26	H27	H28
医師	7	7	7	7	8
内科	3	3	3	3	3
外科	3	3	3	3	4
小児科	1	1	1	1	1
歯科	1	1	1	1	1

表Ⅲ 県立下呂温泉病院の医師の推移

	H24	H25	H26	H27	H28
医師	29	28	25	21	22
内科	7	6	6	4	4
外科	5	4	4	4	3
整形外科	4	4	4	3	3
脳神経外科	2	2	2	3	3
産婦人科	2	2	2	2	3
皮膚科	1	1	1	1	1
麻酔科	◇	◇	◇	◇	1
放射線科	1	1	1	1	1
研修医	3	4	3	1	1
歯科医師	2	2	2	2	2
小児科	◇	◇	◇	◇	◇
泌尿器科	◇	◇	◇	◇	◇
眼科	◇	◇	◇	◇	◇
耳鼻咽喉科	◇	◇	◇	◇	◇
リハビリテーション科	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

◇非常勤派遣医師 ()内は他科と兼務

【主な取組み】

- ◎医療従事者が働きやすい環境整備を進めるとともに、下呂市の良さをアピールしていきましょう。
- ◎病院勤務医の疲弊を防ぐため、市民に対して休日診療所の情報や、病院と個人医院・診療所の役割分担を周知し、医療機関の適正受診を啓発します。
- ◎医師確保のため大学病院への派遣依頼のほか、下呂市出身医師へアプローチを重ねるなど、積極的に招へい活動を行います。
- ◎将来の医療従事者を地元地域から育てるため、小学生、中学生を対象とした啓発事業を実施します。

【目 標】

- ①医師が長期にわたり勤務できる、働きやすい環境づくりを進めます。
- ②現在の医療水準の維持はもちろん、診療科目の拡充に向け、医師確保を進めます。

3. 地域医療を守り育てる活動について

「だれもが笑顔で元気に暮らせるまちを支えます」の基本目標を達成するためには、市民・医療機関・行政が同じ意識を持つことが重要です。

地域医療は医療機関、市民、行政の協働作業であり、いずれかの1つの努力だけでは成り立たないという事を常に念頭に置いた活動を推進する必要があります。

医療機関及び下呂市は、医療施設設備の整備や、医師確保を進めていますが、それだけでは下呂市の医療に対する課題は解決しません。限りある医療資源を活かすために、医療の負担を少しでも減らすことが重要です。

下呂市の医療費については下表のとおり、岐阜県平均を大きく上回っています。これは、下呂市民は他の地域に比べ医療を使っているということであり、下呂市の医師は他地域の医師に比べ、負担が大きいということが考えられます。このことから私たち市民にできることとして、単純に「病気にならない」ことが医療機関の受診を減らし、医師の負担減につながる効果的な取り組みになるのではないのでしょうか。

図Ⅲ 下呂市国保医療費と岐阜県平均の比較

国保医療費 (H26)		
	下呂市	岐阜県
一人当たり医療費	27,753 円	23,826 円



下呂市は一人当たりの医療費が高い

※国保データバンクシステムより

高齢化が進む中、病気にならないためには、生活習慣の改善が効果的です。

こうしたなか、下呂市食生活改善推進員協議会、通称ヘルスマイトの会員は、食生活の改善による健康づくりを長年にわたり進めています。昨年からは下呂ロータリークラブも減塩活動に取り組んでいます。

食と並んで重要な生活習慣は、運動・身体活動です。下呂市でも若年者を中心に様々なスポーツが普及しています。しかし、高齢者の介護予防を目的とした運動や身体活動については、その普及は始まったばかりであり、今後の推進が急務になっています。

生活習慣の改善は、日々の暮らしの中の、市民の自主的な取り組みであり、1人では中断しがちです。しかし、様々な市民団体が参加し呼びかけるという市民運動に発展することで、市民の意識が変わり、生活習慣改善の定着につな

第2章 地域医療確保のための取組み

がると考えています。現状の市民活動をベースにして、多くの人が生活習慣の改善に取り組む仕組みづくりに発展させることが課題です。

医療機関の負担を減らすために、市民ができるもうひとつの手段は、医療機関の受診方法の改善です。「2. 医療を守る人材の確保について」でも述べていますが、コンビニ受診などは、ほかの重症患者の診療機会を確保するため、そして医師の負担を減らすためにも、ぜひとも控えるべきでしょう。

このように、市民の行動を少し変えることで、医療機関に対する負担を減らすことができます。市民一人一人ができることを積み重ねることが、地域医療を守る大きな力になるのです。

図IV 下呂市の介護保険認定者と生活習慣病の状況

	認定者数	脳血管疾患	虚血性心疾患	腎不全
40～64歳 (受給者区分：2号)	28人	76.9%	15.4%	7.7%
65～74歳	203人	54.5%	26.2%	7.6%



脳血管疾患の認定者が重複して患う基礎疾患の割合

高血圧	脂質異常症	糖尿病
76.6%	57.0%	50.0%



40～64歳(2号被保険者)の介護保険認定者の若い世代の病気を調べたところ、脳血管疾患と高血圧の症状の方が多いことがわかります。

※国保データバンクシステムより



【主な取組み】

- ◎減塩など食習慣の改善や、運動を継続するなど、生活習慣の改善に取り組みましょう。
- ◎地域医療を守り育てるために、何ができるのか、市民一人一人が考えましょう。
- ◎生活習慣の改善を推進する市民活動を支援するため、きめ細かい情報提供を行います。
- ◎下呂市の医療体制の現状について、市民に繰り返し説明します。

【目 標】

- ① 医療機関と市民と行政が協働して、地域医療を守り育てる具体的な活動の展開を図ります。
- ② 健康寿命の延伸を目指し、減塩など生活習慣の改善について、健康づくりの市民運動につなげます。

.



.

.

.

.

・

・

・

・

・

・

・

第3章 「下呂市医療ビジョン」(初版)の反省と課題



・

・

第3章 「下呂市医療ビジョン」(初版)の反省と課題
